

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）

分担研究報告書

血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者に対する肝移植を含めた外科治療に関する研究

研究分担者 永田康浩

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療学 教授

#### 研究要旨

血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者に対する外科治療のガイド作成にあたり、一般外科領域として消化管外科および鼠径ヘルニア手術に対する外科治療の診療ガイドを作成した。術前の血液凝固因子の十分な補充と周術期の管理により手術成績は遜色がなく、手術適応を制限するものではないと考えられた。

協同研究者：藤田文彦（久留米大学消化器外科 教授）

#### A. 研究目的

これまで、血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者に対する外科治療のガイドラインは存在しない。そこで、一般手術も含めたベストプラクティスをハンドブックとして提示することで、HIV/HCV 重複感染患者に対する外科治療の成績向上に寄与することを目的とした。

#### B. 研究方法

血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者に対する一般外科手術として消化管手術と鼠径ヘルニアを対象とした。文献レビューと自験例を中心に、外科手術における術前、術中、術後の周術期管理を検討した。検討内容はオンライン会議で報告し、分担執筆者間でピアレビューを行った。

#### C. 研究結果

各論領域の一般外科のなかで消化管手術および鼠径ヘルニアなどの手術の要点と注意点をまとめた。血友病患者に対する一般外科手術のエビデンスは確立されていないが、これまでの報告例と自験例を挙げて周術期管理に関する具体的な注意項目などを列挙した。また、感染がコントロールされている HIV 感染者に対する一般手術の成績は非感染者と同等であることも追記した。

#### D. 考察

血友病患者に対する一般手術においては術前の血液凝固因子の十分な補充により手術成績は遜色がなく、手術適応を制限するものではないと考えられた。また、術後出血などは起こりうる合併症であるため、緊急的な検査は躊躇すべきではないと記載した。

#### E. 結論

重複感染における血友病患者に対する一般手術は、適切な周術期の管理を行うことで手術適応の制限にはならない。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし